

科目名	マルチメジャー1								年度	2024
英語科目名	Multi major-1								学期	後期
学科・学年	コンサート・イベント 科 1 年次	必／選	選※	時間数	15	単位数	1	種別※	講義	
担当教員	小山慶・島立麦人・森岡重樹・小峰建・吉野雄一郎・嶋田円歌			教員の実務経験		有	実務経験の職種		音楽・イベント系企業	
【 科目の目的】										
専門分野を理解し、学際的な学びの意味を認識する。専門分野外の音楽実技やスタッフワークを実際の現場で経験し、知識を得る。学んだことを学校の実習や将来の現場で活かすために、複合的な視座を身につける。自身が選択しているコースや専攻以外にも広範な知識を習得する。										
【 科目の概要】										
自分が選択している専攻・コース以外に、幅広く 学びます。										
【 到達目標】										
A 専門分野の範囲を把握し、学際的な学びの意義を知る。 B 専門分野の範囲外の色々なジャンルの音楽実技または音楽スタッフワークを現場で体験し知見を得る。 C 学んだことを学校の実習や将来の現場で生かす複合的な視座を体得する。										
【 授業の注意点】										
学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視しキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく 対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 している			レベル2 ふつう			レベル1 要努力			
到達目標 A	専門分野の範囲を把握し、 学際的な学びの意義を知る			専門分野の範囲を把握している			到達目標Aについて さらなる努力が必要			
到達目標 B	専門分野の範囲外の色々なジャンルの 音楽実技または音楽スタッフワークを 現場で体験し知見を得る			専門分野の範囲外の色々なジャンルの 音楽実技または音楽スタッフワークを 説明できる			到達目標Bについて さらなる努力が必要			
到達目標 C	学んだことを学校の実習や 将来の現場で生かす複合的な視座を 体得する			学んだことを学校の実習で 生かす複合的な視座を体得する			到達目標Cについて さらなる努力が必要			
【 教科書】										
プリント 資料										
【 参考資料】										
特になし										
【 成績の評価方法・評価基準】										
* 出席率、積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。 * 実技試験を実施しスキルの習得を確認し評価する。										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名		マルチメジャー1				年度	2024
英語表記		Mul ti Mj or-1				学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	第一課題 課題発表 概要説明	課題の趣旨を理解	1	マルチメジャーとは	マルチメジャーの意義がわかる	3	
			2	課題発表	第一課題の意義がわかる		
			3	課題理解	課題の内容を理解できる		
2	第一課題 実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
3	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
4	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
5	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
6	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
7	まとめ	応用方法を学ぶ	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	構造化した課題の合成	分解した課題をまとめる		
			3	課題発表	第一課題をまとめ、発表する		
8	第二課題 課題発表 概要説明	課題の趣旨を理解	1	第一課題の振り返り	第一課題について振り返りができる	3	
			2	課題発表	第二課題の意義がわかる		
			3	課題理解	課題の内容を理解できる		
9	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
10	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
11	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
12	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
13	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
14	まとめ	応用方法を学ぶ	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	構造化した課題の合成	分解した課題をまとめる		
			3	課題発表	第二課題をまとめ、発表する		
15	総合復習	復習の実践	1	第一課題の振り返り	第一課題を自分のものにできる	3	
			2	第二課題の振り返り	第二課題を自分のものにできる		
			3	分野横断の可能性	分野横断技術を体得することへの可能性を知る		
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他							
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった							
備考 等							